

市政に
関する

一般質問の概要



市民の健康づくりについて

公明党 日吉 弘子

問 平成30年4月の機構改革により各世代に対応した健康づくりが推進されておりますが、切れ目のない健康づくりのためには、①情報の一元化②子ども世代の健診などの個別化③若い世代の健康診断の実施④えびな版オールフレイル健診の実施⑤高齢者を対象として実施されている肺炎球菌ワクチン定期接種事業の対象者への個別通知の実施が必要であると考えますが、市の見解を伺います。

答 (保健福祉部次長) ①公立小中学校に導入されている校務支援システムへ健康管理情報を取り込み、市の健康管理システムとの間でデータをやり取りすることにより母子保健、学校保健、成人の保健までのデータを一元化します。②受診者の利便性を考慮しこれまで集団実施していたBCG予防接種と1歳6か月児歯科健康診査を医療機関での受診に移行し、予防接種は全て個別になります。③健康への意識づけと病の早期発見を図るため、事業所健診などを受ける機会がない18歳から39歳までの市民を対象に健康診断を実施します。④フレイルへの移行を未然に防ぐため65歳以上を対象にした県のモデル事業に加え市単独で55歳以上を対象としたオールフレイル健診を実施しフレイル対策に取り組みます。⑤肺炎球菌ワクチン定期接種事業の対応について65歳からの5歳刻みである定期接種の方のみの助成になり自己負担額が3千円で予防接種が受けられるので、65歳からの5歳刻みである定期接種の対象者に個別通知を行い接種率向上を図ります。

その他の質問

- ・子育て支援について
- ・活力と魅力あふれるまちづくりについて

運動公園へのアクセス向上策について
海老名市立地適正化計画(案)について

創志会 鶴指 真澄

問 本市は、今年9月のラグビーワールドカップでのロシア代表の公認チームキャンプ地として指定され、運動公園野球場は、今後、高校野球の公式戦やプロ野球などの試合のほか、市民まつりも行われます。交通弱者の方々にとって、運動公園へのアクセスは、JR相模線を利用するだけです。最寄り駅は、厚木駅が駅家駅で、徒歩で30分以上かかり難儀です。JR東日本に対し、運動公園付近に新駅設置を要望することについて、市の考えを伺います。

答 (まちづくり部次長) 新駅設置については、JR東日本に継続的に要望しています。JR東日本からの現段階での回答は、まず、物理的に可能であること、現行の輸送体制に悪影響を与えないこと、増加収入が経費を上回ることなどを総合的に判断して検討することとなっています。多くの年齢層の方が利用しており、近隣住民や企業の従業員など、新駅が設置されれば交通利便性が向上するものと考えますので、今後も引き続き要望してまいります。

問 立地適正化計画は、海老名市の将来の人口減少に備えて「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」を設定し、この区域に対し誘導施設の整備方針と公共交通ネットワークとの連携でまちづくりの方針を進める内容ですが、この計画の意義と目的について伺います。

答 (まちづくり部次長) 人口減少社会においても、効率的かつ効果的な行政運営を維持していくためには、この時期から、将来の人口減少、高齢化社会に備えて対応していくことが必要であり、そのことが持続可能なまちづくりを可能にすると考えています。



海老名運動公園の陸上競技場

河原口高水敷の暫定利用について
子どもの健康管理システムについて

創志会 志野 誠也

問 相模川河原口地区河川改修部分の暫定利用の考え方について伺います。

答 (市長) 河原口高水敷は掘削作業の進捗が遅れているものの、相模川海老名スポーツ施設ネットワーク事業の一つの施設として位置づけられていることから、有効活用を図っていきたいと考えています。なお、暫定整備については、県と協議し安全が確保され次第、地域の意見を伺いながら早期に実施したいと考えています。また、計画についても再検討する時期に入っていると思っています。平成31年度には、河川改修後の利用についても、しっかりと計画を作っていくたいと思っています。

答 (市民協働部次長) 暫定整備については、平成20年度に実施した、河原口高水敷利活用暫定整備基本構想策定調査の報告書を参考に周辺状況の変化についても鑑み、地域住民の意見などを踏まえて検討します。

問 0歳から切れ目のない健康管理システムの具体的内容について伺います。

答 (教育部次長) 小中学校の校務支援システムの一部として健康管理システムを導入し、教員の負担軽減を図るとともに、個々の成長曲線の確認など、細かな健康管理が行えると考えています。

問 学習情報と健康情報と同じシステム上になることでさまざまなクロス集計も行えると思いますが、活用について伺います。

答 (教育部長) まず校務支援システムにあるさまざまなデータが子どもたちの支援にどのようなつながるか研究してまいります。

その他の質問

- ・小中学校修学旅行支援について

